

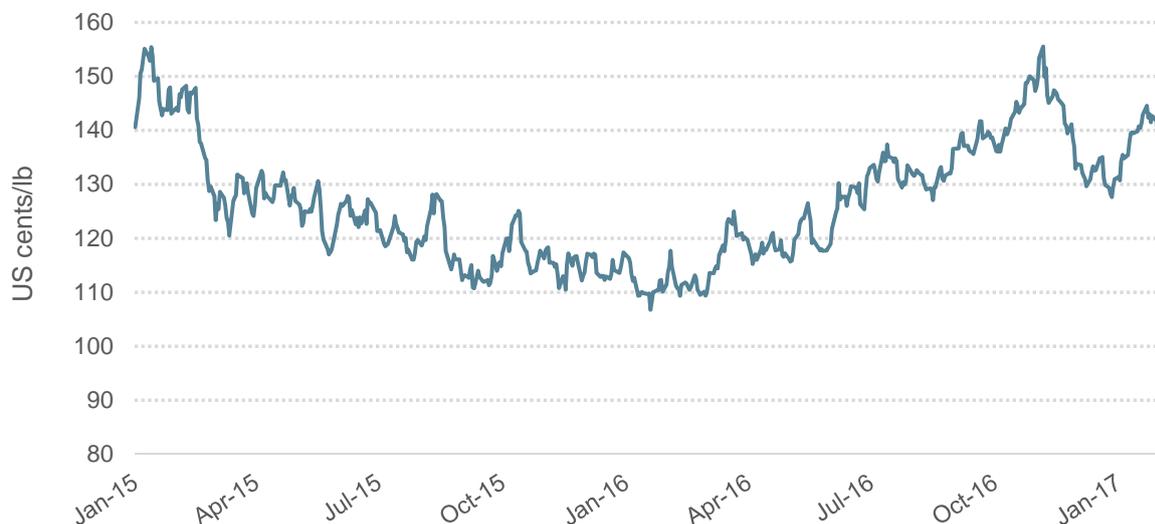
今月はICOの1月マーケットレポート邦訳及びNCAホームページからトピックスを3つお届けします。



## ロブスタコーヒー価格は5 年半振りの高値を付ける

コーヒー価格は昨年末にかけ下がったが、1月は回復した。コーヒー価格は全グループ上昇したが、特にロブスタの上昇が顕著だった。2016/17年度第一四半期の輸出量は、8.3%増え29.8百万袋となった。ブラジルのCONAB（ブラジル食糧供給公社）は2017/18年度の第一回コーヒー生産量予想を発表したが、内容は2016/17年度に比べ10%減少するというものだった。輸出量の増加及び消費国の過剰在庫はコーヒー価格の押し下げ圧力となっている。

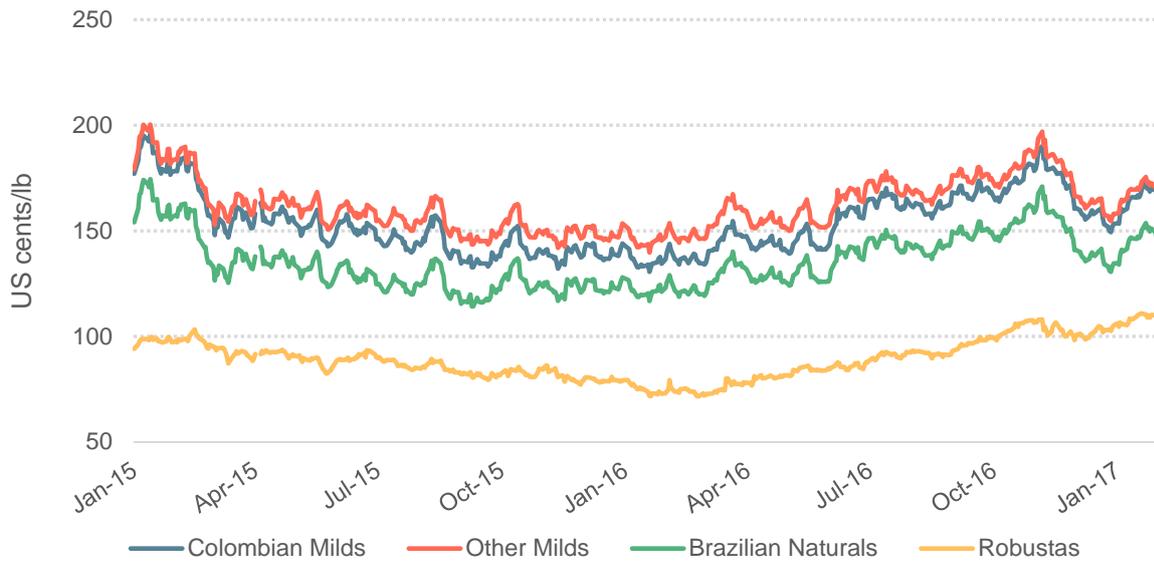
グラフ 1: ICO 日次複合指標価格



© 2017 International Coffee Organization ([www.ico.org](http://www.ico.org))

1月のICO複合指標価格の月間平均は、2016年12月の131.70米セント/LBに比べ5.6%高い139.07米セントとなった。1月のICO複合指標平均価格は大きく上昇したとは言えるものの2016年11月の145.82米セントに比べると低い水準である。ICO日次複合指標価格は1月23日に144.54米セントを付けたが、コーヒー輸出の堅調な伸びとブラジルの気候が良好とのニュースが上昇傾向に水を差し、1月末にかけてコーヒー価格は下がった。

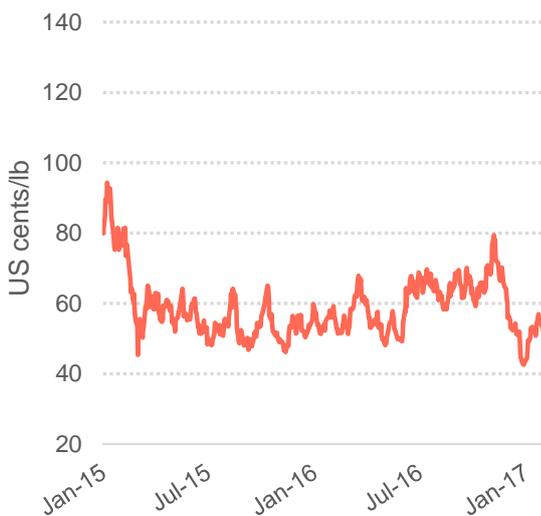
グラフ 2: ICO 日次グループ指標価格



© 2017 International Coffee Organization ([www.ico.org](http://www.ico.org))

価格が最も上昇したのはロブスタコーヒーグループで、6.4%上昇し108.32米セントを付けたが、これは2011年9月以来の最高値である。この上昇は主にブラジルのコニロンの生産量が少ないこと及びベトナム、インドネシアの減産予想によるものである。結果として、焙煎業者は代替用としてその他オリジンのロブスタコーヒーやアラビカコーヒー低級品をブレンドとして使用したため、アラビカコーヒー価格も上昇し、コロンビアマイルド、アザーマイルド、ブラジルナチュラルのグループ指標価格も夫々5.3%、4.2%、6.2%上昇した。同時にロンドン及びニューヨーク先物市場のアービトラージは49.38米セントから52.00米セントに5.3%上昇した。

グラフ 3: ニューヨークとロンドン先物市場のアービトラージ



© 2017 International Coffee Organization ([www.ico.org](http://www.ico.org))

グラフ 4: ICO 複合指標価格の30日移動平均価格変動率

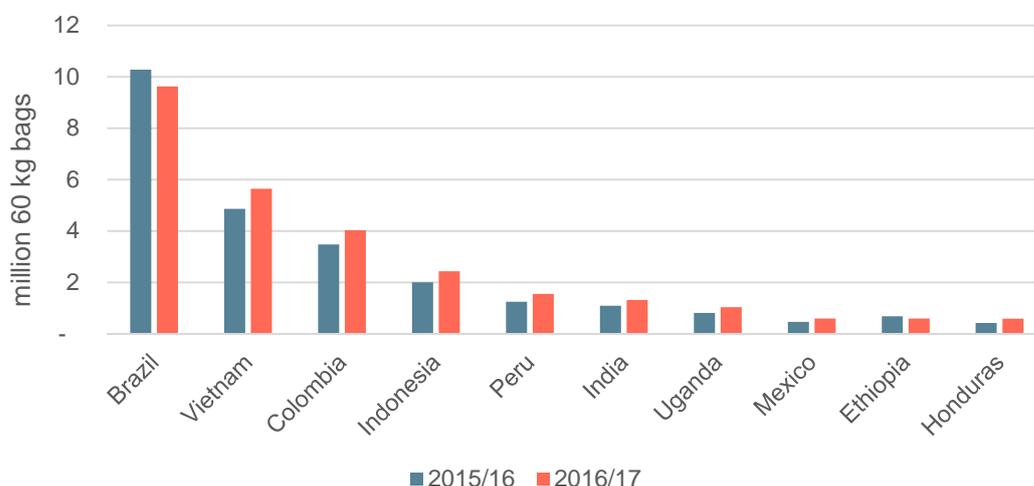


© 2017 International Coffee Organization ([www.ico.org](http://www.ico.org))

2016年12月の総輸出量は10.2百万袋となり、前年同月対比7%の増加となった。また2016/17年度の第一四半期（10月～12月）輸出量は29.8百万袋となり、前年同期比8.3%増加した。アラビカコーヒーの輸出量は8.5%増え19.2百万袋となった。最も輸出量が増えたのは23.3%増加したアザーマイルドグループで特にホンジュラス、パプアニューギニア、ペルーの輸出が多かった。コロンビアマイルドグループの輸出も500000袋増と堅調で、コロンビアの生産量は1990年代では見られなかった程の生産量水準にまで回復している。ブラジルナチュラルグループの輸出量は3.7%増えた。

一方、ロブスタコーヒーの輸出量は前年対比7.9%増加の予想であり、ロブスタの2大生産国、ベトナムとインドネシアの推定輸出量は夫々16.1%、21.2%増となっている。

グラフ 5: 主要輸出国の輸出量（10月～12月）



© 2017 International Coffee Organization ([www.ico.org](http://www.ico.org))

生産量については、ブラジルの農作物生産予想公的機関であるCONABが最近発表した第一回予想によると、2017/18年度の同国のコーヒー生産量は、43.65～47.5百万袋である。これは、最も楽観的な数字だとすると前年対比8%の減少であり、最も悲観的な数字だとすると15%近い減少となる。この発表の生産量内訳は、アラビカコーヒーが35.01～37.89百万袋であり、ロブスタコーヒーが8.64～9.63百万袋となっている。即ちアラビカコーヒーの生産量が13%～19%と大きく減産の予想だが、これは2017/18年度が2年生産サイクルの裏年に当たる為で、2016/17豊作年後のコーヒー木の体力カバーの年だからである。一方、ロブスタコーヒーは、前年度の不作から大きく回復し8%～21%の増産予想となっている。尤も民間会社の中にはこれ以上の生産量予想数字を出しているところもある。ICO加盟生産国から入手した最新情報を集計すると2016/17年度の総生産量は約151.6百万袋となっている。

表 1: ICO 指標価格及び先物価格 (US cents/lb)

	ICO Composite	Colombian Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	New York*	London*
<b>Monthly averages</b>							
Jan-16	110.89	135.21	145.03	121.21	74.71	120.20	65.67
Feb-16	111.75	137.17	147.70	122.24	74.04	119.25	64.96
Mar-16	117.83	145.20	157.50	130.38	75.60	127.33	66.17
Apr-16	117.93	143.66	154.22	128.10	80.18	125.34	70.90
May-16	119.91	144.49	155.19	129.05	83.93	126.80	75.11
Jun-16	127.05	156.86	165.45	138.38	85.94	139.10	76.87
Jul-16	132.98	164.46	171.76	144.76	90.82	148.16	82.09
Aug-16	131.00	160.78	167.54	141.41	91.79	145.37	83.47
Sep-16	138.22	168.85	176.30	149.80	96.88	154.87	88.63
Oct-16	142.68	172.28	178.96	153.15	103.65	160.07	95.30
Nov-16	145.82	177.85	184.12	157.72	103.72	165.24	95.40
Dec-16	131.70	156.64	161.78	137.14	101.85	143.04	93.66
Jan-17	139.07	164.96	168.61	145.70	108.32	152.24	100.24
<b>% change between Jan-17 and Dec-16</b>							
	5.6%	5.3%	4.2%	6.2%	6.4%	6.4%	7.0%
<b>価格変動率 (%)</b>							
Dec-16	5.0%	5.3%	5.2%	5.9%	5.2%	6.6%	5.8%
Jan-17	6.3%	7.0%	6.5%	7.8%	6.0%	7.9%	6.3%
<b>Variation between Jan-17 and Dec-16</b>							
	1.3%	1.7%	1.3%	1.9%	0.8%	1.3%	0.5%

\* 第2及び第3限月の平均価格

表 2: 価格差 (US cents/lb)

	Colombian Milds Other Milds	Colombian Milds Brazilian Naturals	Colombian Milds Robustas	Other Milds Brazilian Naturals	Other Milds Robustas	Brazilian Naturals Robustas	New York* London*
Jan-16	-9.82	14.00	60.50	23.82	70.32	46.50	54.53
Feb-16	-10.53	14.93	63.13	25.46	73.66	48.20	54.29
Mar-16	-12.30	14.82	69.60	27.12	81.90	54.78	61.16
Apr-16	-10.56	15.56	63.48	26.12	74.04	47.92	54.44
May-16	-10.70	15.44	60.56	26.14	71.26	45.12	51.69
Jun-16	-8.59	18.48	70.92	27.07	79.51	52.44	62.23
Jul-16	-7.30	19.70	73.64	27.00	80.94	53.94	66.07
Aug-16	-6.76	19.37	68.99	26.13	75.75	49.62	61.90
Sep-16	-7.45	19.05	71.97	26.50	79.42	52.92	66.24
Oct-16	-6.68	19.13	68.63	25.81	75.31	49.50	64.77
Nov-16	-6.27	20.13	74.13	26.40	80.40	54.00	69.84
Dec-16	-5.14	19.50	54.79	24.64	59.93	35.29	49.38
Jan-17	-3.65	19.26	56.64	22.91	60.29	37.38	52.00
<b>% change between Dec-16 and Nov-16</b>							
	-29.0%	-1.2%	3.4%	-7.0%	0.6%	5.9%	5.3%

\* 第2及び第3限月の平均価格

表 3: 世界のコーヒー需給バランス

Crop year commencing	2013	2014	2015	2016*	% change 2015-16
<b>生産量</b>	<b>152 130</b>	<b>148 724</b>	<b>151 438</b>	<b>151 624</b>	<b>0.1%</b>
Arabica	90 163	86 151	88 273	95 204	7.9%
Robusta	61 967	62 572	63 165	56 419	-10.7%
Africa	16 243	15 987	16 229	16 353	0.8%
Asia & Oceania	46 461	45 666	48 967	43 110	-12.0%
Mexico & Central America	16 598	17 116	17 291	17 740	2.6%
South America	72 828	69 954	68 951	74 420	7.9%
<b>消費量</b>	<b>149 032</b>	<b>151 822</b>	<b>155 712</b>	<b>155 100</b>	<b>-0.4%</b>
Exporting countries	46 109	47 245	48 262	48 337	0.2%
Importing countries (Coffee Years)	102 931	104 577	107 450	106 763	-0.6%
Africa	10 595	10 739	10 745	10 774	0.3%
Asia & Oceania	30 714	32 602	33 665	33 669	0.0%
Mexico & Central America	5 158	5 240	5 311	5 237	-1.4%
Europe	50 169	50 907	51 802	51 544	-0.5%
North America	27 714	27 372	28 875	28 535	-1.2%
South America	24 682	24 962	25 313	25 341	0.1%
<b>差</b>	<b>3 098</b>	<b>-3 098</b>	<b>-4 274</b>	<b>-3 476</b>	<b>-18.7%</b>

単位：千袋

\* 推定値

表 4: 輸出国の総輸出量

	December 2015	December 2016	% change	October - December		
				2015/16	2016/17	% change
<b>TOTAL</b>	<b>9 500</b>	<b>10 166</b>	<b>7.0%</b>	<b>27 490</b>	<b>29 773</b>	<b>8.3%</b>
Arabicas	6 091	6 542	7.4%	17 724	19 233	8.5%
Colombian Milds	1 292	1 590	23.0%	3 806	4 340	14.1%
Other Milds	1 524	1 735	13.8%	4 021	4 959	23.3%
Brazilian Naturals	3 275	3 217	-1.8%	9 897	9 934	3.7%
Robustas	3 409	3 624	6.3%	9 767	10 539	7.9%

単位：千袋

Full trade statistics are available on the ICO website at [www.ico.org/trade\\_statistics.asp](http://www.ico.org/trade_statistics.asp)

表 5: ニューヨークとロンドン先物市場の認証在庫量

	Jan-16	Feb-16	Mar-16	Apr-16	May-16	Jun-16	Jul-16	Aug-16	Sep-16	Oct-16	Nov-16	Dec-16	Jan-17
New York	1.82	1.76	1.62	1.58	1.53	1.48	1.45	1.45	1.42	1.44	1.42	1.40	1.45
London	3.23	3.04	2.92	2.78	2.64	2.53	2.45	2.37	2.32	2.28	2.38	2.39	2.73

単位：1百万袋

ートピックス (1) ー

2016年12月29日付のNCAニュースに掲載されていた記事をお届けします。『Resly Blog』が情報元で投稿者はTyler Hubbell氏とのことです。

### 2017年に見逃すことのできないコーヒー産業の5つの傾向

皆さんご存知のように、家庭内で抽出して飲もうが、容器入りコーヒー飲料を飲もうが、喫茶店でホット、もしくはアイスコーヒーとして飲もうが、コーヒーを飲む日常生活はいろいろな形でスタートします。コーヒーはこれまで長い間飲まれてきましたが、現在コーヒー産業は大きな転換期にあります。

若者の生活スタイルは忙しくかつ変幻自在 (ubiquitous) であり、彼らはどんな場所においてもコーヒーが飲めることを望むようになっていきます。一方、コーヒー小売り業者は、これらの忙しい客を呼び込むために、少しでも早くコーヒーを提供できるよう様々な方法を模索しています。

ここで2017年に流行るであろう5つのコーヒー産業のトレンドを紹介します。

#### 1. 新しい世代、新しい価値基準

米国の人口統計調査によると昨年春、若者世代 (Millennials) が、ベビーブーマー世代 (Baby Boomers) に替わり最も多い世代人口を占めることになった。この若者世代はこれまでの他の年代層に比べ最も社会的 (Social) であり、かつ活動範囲の広い (Mobile) 世代である。結果として、コーヒーはプライベートな家庭内からより公共性の高い家庭外で飲まれるようになり、かつマスコミ (Social Media) に影響されやすい飲み物になっている。

これらが念頭にある若者世代は、彼らの両親世代とは違ったことにコーヒーの価値を置くようになった。多くの年配世代にとってコーヒーは家庭内で憩いを求めて飲むものであり、彼らは自分達の飲むコーヒーの価格に重点を置いていた。しかし、若者世代は価格よりもコーヒーから得られる自分の体験そのものに価値を置いている。

このような傾向を考慮した上で、読者には次のような事に投資することをお勧めする。

- ・人々が共感できるような写真等を含む、目を引くパッケージや商標に金をかける。
- ・自社製品の持続可能性 (Sustainability) について、何を約束できるのかを紹介 (showcase) する。
- ・新しいパッケージや配送システムを試してみる。
- ・リーダーシップチーム (leadership Team) を強化する。何故なら消費者は皆さんの会社の創立チーム (founding team) に連絡し、製品ラベルに書かれてあること以外に優れているというメッセージを直接聞きたいと考えているからである。

#### 2. コーヒー飲料 (Ready to Drink Coffee) の販売が大きく伸びる

我々は時の流れの早い時代に生きており、今後更に加速されるということに疑いの余地はないだろう。これは、人々が（都度抽出する必要のない）コーヒー飲料を飲むようになるということである。Bloomberg レポートによると、このような事情を背景に、缶コーヒー及びその他容器入りコーヒーを含むコーヒー飲料市場は 2015 年に 24 億米ドルに達し、その後も更に拡大しているとのことである。2017 年にコーヒー飲料（RTD）販売が大きく伸びる理由として、米国内のソフトドリンク飲用者数が減っているということが挙げられる。Food & Beverage Marketing 社副社長 Karen Bundy 氏は飲料需要動向調査結果について、『カフェイン入りコーラを含む炭酸飲料を飲む人の数が減っている時に、缶入り・その他容器入りアイスコーヒーが市場に登場したということは必ずしも偶然の一致ではないだろう』とコメントしている。

そしてこの動きは、コーヒー産業の大手企業が思い切って飲料市場に参入する切っ掛けとなっている。2016 年 9 月、ダンキンドーナツはコカ・コーラと提携して 2017 年にアイスコーヒーを発売することを発表した。

### 3. 蛇口から飲めるモーニングコーヒー

コーヒー飲料があれば、消費者はどこにいてもコーヒーを簡単に飲むことが出来る。あるコーヒー小売り業者によると、窒素充填コーヒーを売り始めて客足が戻ったとのことである。窒素コーヒーは蛇口から直接注ぐが、例えばギネスビールと同じような口当たりを楽しむことが出来るものである。泡やクリーミーな口当たりのお陰でコーヒーの苦みを消すのに、砂糖やミルクをそれ程入れる必要がないため、健康志向の強いコーヒーファンに受け入れられてようである。更に、この口当たりをコーヒーで再現するのは難しいので若者にとっては希少性のある特別な体験になるようである。

### 4. アイスコーヒー (iced coffee) から水出しコーヒー(cold brew coffee)へ

アイスコーヒーは長い間、夏場に涼を求めて飲まれ、またカフェイン入りエネルギードリンクとして飲まれていたが、変化が表れている。即ちこの数年間水出しコーヒー人気が沸騰してきており、この傾向は 2017 年にも続くことになるだろう。

Mintel レポートによると 2011 年から 2016 年にかけて水出しコーヒーの販売金額は 580% に増えているとのことである。この販売金額の大部分は喫茶店のものだが、今後は多くの小売りブランドの水出しコーヒーが商品ラインナップに並ぶことになるだろう。

ここで水出しコーヒーと伝統的なアイスコーヒーの違いを説明する。アイスコーヒーは普通のレギュラーコーヒーと同じように、コーヒー豆からフレーバー、糖分、オイル、カフェインを抽出するのに熱を使い、抽出後、コーヒーを冷やし、氷を入れる。一方、水出しコーヒーの抽出には熱ではなく時間をかける。即ち、コーヒー豆を 12 時間以上水に浸けてコーヒーを抽出するのである。

## 5. スペシャルティーコーヒーへの移行

何はともあれ、消費者は価格ではなく彼らの体験そのものを重視するようになるので、グルメコーヒー、スペシャルティーコーヒーの消費が増えることになるだろう。米国スペシャルティーコーヒー協会によると、米國小売り市場、480億米ドルの内、55%の売り上げが来年、スペシャルティーコーヒー市場に向かうことになるだろうとのことである。また2017年には、従来スペシャルティーコーヒーを扱っていなかったメーカーも、高級コーヒーラインアップを揃え、成功することになるだろう。 以上

### ートピックス (2) ー

1月23日のNCAニュースにアラビカコーヒーの遺伝子配列が解明されたとの興味深い記事がありました。

#### アラビカコーヒーの遺伝子配列が解明された (Arabica Coffee genome sequenced)

2017年1月13日 情報元、カリフォルニア大学Davis校 (UC, Davis校)

世界で流通するコーヒーの70%を占めるコフィア・アラビカ (Coffea Arabica) の遺伝子配列 (genome sequence) が今日初めて、カリフォルニア大学Davis校 (UC, Davis校) の研究者グループにより公表された。配列解明への資金提供は、東京に本社のある、国際的食品・飲料メーカーのサントリーグループが行ったのものである。

今後は世界の科学者や植物栽培者 (Plant Breeder) はすぐにでもこれらの情報を利用することが出来るようになる。この新しい遺伝子情報は、米国エネルギー省共同ゲノム研究所 (US Department of Energy's Joint Genome Institute) と共催の公的データベース Phytozome.net の相対植物ゲノミクス (comparative plant genomics) に掲載されている。1月15日 (日)、サンディエゴで開催される植物・動物遺伝子学会に於いてこの遺伝子配列の詳細は発表される。

このコフィア・アラビカの遺伝子配列情報は特にカリフォルニア州にとっては意味深いものである。何故なら、同州では米国本土で初めて商業用コーヒーが栽培されており、またスペシャルティーコーヒー産業が始まったのも同州においてだからである。

UC, Davis校、農業・環境科学科の遺伝学者でこの配列解明の共同研究者でもある Juan Medrano氏によると、『このコフィア・アラビカの遺伝子配列には、今後30年に亘り世界のコーヒー生産にとり脅威となる気候変動対策として病気への耐性が強い品種や品質改善の為に、非常に重要な情報が含まれている』とのことである。

更に彼は次のようにも言っている、『我々の願いは、この情報がサビ病のような病気の被害に生計が晒されているコーヒー生産者にとってのみならず、コーヒー焙煎業者、消費者など世界の全てのコーヒー関係者にとって役立つことである』と。

遺伝子配列解明作業に参加したのは、Maderano 氏以外には、植物科学者の Allen Van Deynze 氏、Dario Cantu 氏及び Amanda Hulse-Kemp 博士(いずれも UC, Davis 校)である。

コーヒー生産国であるグアテマラで生まれ育った Medrano 氏は、数年前中米の同僚から、コフィア・アラビカの品質改善の為にゲノム技術を導入するよう要請された。

ロブスタコーヒーとして知られ、ブレンドやインスタントコーヒー製造用として使われるコフィア・カネフォラについては2014年に遺伝子配列は解明されていたが、価格が高く、遺伝子が複雑なコフィア・アラビカについては公に利用可能な遺伝子情報は存在しなかった。

Medrano 氏はコフィア・アラビカの遺伝子解明に興味をそそられたが、彼は動物の遺伝学者であり家畜の遺伝解明方法は知っていたが農産物についてはよく解らなかつた。

しかし彼はあきらめず、早速、UC、Davis 校、種苗生物学センター主任研究員で植物改良センター (Plant Breeding Center) の副主任研究員でもある、分子改良学者 (molecular breeder) の Van Deynze 氏や同校のブドウ栽培学・ワイン醸造学部門の遺伝学者の Cantu 氏にも声をかけた。

一方、UC, Davis 校チームは、偶然にも北 Santa Barbara の Good Land Organics (GLO) 農園で米国本土で初めての商業用コーヒーを、同校の農業技術者 Mark Gaskell 氏の指導で生産していた農業家 Jay Ruskey 氏に紹介されたのである。

コーヒーは熱帯性農作物で、伝統的には赤道から南北 25 度の回帰線内の世界各地で栽培されている。しかし、Ruskey 氏の Central Coast 農園は他商業コーヒー生産農園に比べる 19 度も北に位置した地域にもかかわらず高品質なコーヒーが生産されるのである。

Ruskey 氏はまた同農園以外にも San Luis Obispo から南は San Diego に至るまでの広い地域の 20 農園にコーヒー木を植樹している。彼はカリフォルニア州で新しいスペシャルティーコーヒー産業を興せると信じている。

遺伝子配列の解明プロジェクトへの資金提供は Suntory Global Innovation Center 株式会社 (本社：京都、日本) を通じ、サントリーグループが行ったものである。

同社はコーヒー飲料を含む多くのブランドを日本で販売しており、コフィア・アラビカの遺伝子配列には特に興味を持っている。

Suntory Global Innovation Center 社の役員田中義一氏は、『コフィア・アラビカの遺伝子解明に伴う機能分析で、香りが高く、病気耐性のある新品種の開発につながると考えている』と語った。

以上

—トピックス (3) —

全米コーヒー協会 (NCA) ホームページから 1 月 27 日付会員アラートにトランプ新政権スポークスマンが発表したメキシコからの輸入品に対する『20%輸入関税』について関連記事が掲載されていました。

### 2017 年 1 月 27 日、会員への警報 (Member Alert) : 『輸入税』について説明する

米国政府がメキシコからの輸入品に対し 20%課税すると発表したことがマスコミに騒がれていることはご承知の通りである。当然のことながらこれが実施されれば、NCA の会員及び米国コーヒー産業にとっては大変な負担になるだろう。これに関連しとりあえず皆さんに知っておいて欲しい点は次の通りである。

・政府が提案しているのは『輸入関税 (Import Tax)』ではなく、『国境調整税 (貿易不均衡調整税)』のようなものである。この税は共和党議員がこれまでに提案してきた法人税改革の一環としての調整税として導入しようとしているものだが、条例が本決まりとなった訳ではない。

・政府によるとこの『国境調整税』は法人税改革の一環であり、メキシコ国境に壁を建設するための資金調達手段の一つとして考えるとのことである。この 20%という数字は、法人税改革による新法人税率 20% (利益の 35%にかかる現行法人税率から 20%に下げる) を念頭においてのことである。

・『国境調整税』は、輸出ではなく輸入にかけるということで、関税のような印象を与えるが、一般的には貿易インバランスのある国に対し赤字額に対してかけるものなので、輸入品にかけるという表現になるのである。従い、輸入品に新たな関税をかけるということではなく、輸出税との関係で決まるものである。

・現在米国は主に輸出品に課税しており輸入品に課税することは稀である。政府が提案する『国境調整税』は、法人税削減も考慮に入れた上で、輸入品課税を増やそうとするものである。即ち、メキシコだけではなく米国が貿易赤字となっている全ての国からの輸入品に適用されるものである。

・政府は再度メキシコに電話し、国境調整税は国境の壁を作る為の資金を作る為の一つの手段に過ぎないことを確認した。トランプ大統領は、国境間接税は余りにも複雑なのでできれば他の手段がないか模索しているようである。ただ、税金改革の全体像についての政府の姿

勢は未だ明確ではない。

・コーヒー産業としては、コーヒーへの輸入税が追加課税されないよう説得力のある議論を展開したいと考えている。

### 背景及び詳細

全米コーヒー協会としては、引き続き本件をフォローし、必要な対策をとるつもりである。即ちコーヒーに追加課税されないようベストするつもりである。米国は世界最大のコーヒー消費国だが、国内消費の成長率は限られている。NCAの需要動向調査では、全米で135百万人の国民がコーヒーを飲んでいるが、これらの人は連邦政府のさじ加減でコーヒーに課税できることを知っている。

米国コーヒー産業経済規模調査（全米コーヒー協会及びスペシャルティコーヒー協会が合同調査したもの）によるとコーヒー産業に従事している米国民労働者は1.7百万人だが、コーヒーの値段が上がり消費が落ちれば、これらの人々の生活が脅かされることになるのである。政府の立場から見ると、コーヒー消費に影響が出るということは、米国の国内総生産（GDP）の1.6%、連邦、州、地方税併せて280億米ドルの税収を生み出しているコーヒー産業を傷つけるということになるのである。

全米コーヒー協会は事態の進展を見守り、状況を皆さんに報告するつもりである。何か事態に変化があれば情報更新するつもりである。

以上